

平成29年10月23日

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 227人 国語B 227人

② 数学A 227人 数学B 227人

5 留意事項

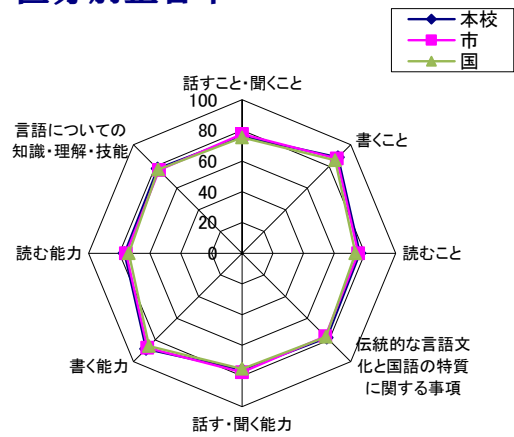
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

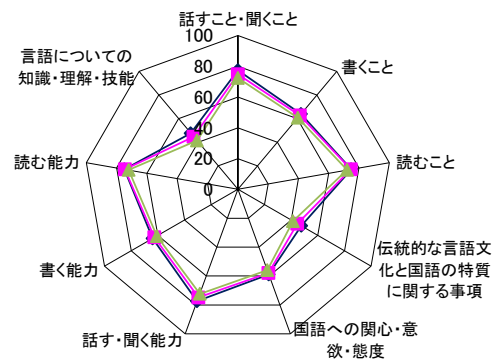
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.1	77.6	75.4
	書くこと	88.3	87.3	85.7
	読むこと	76.6	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.1	77.6	75.4
	書く能力	88.3	87.3	85.7
	読む能力	76.6	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	77.9	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.4	74.8	72.4
	書くこと	64.0	62.6	60.8
	読むこと	74.9	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	47.6	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	58.9	58.0	55.9
	話す・聞く能力	77.4	74.8	72.4
	書く能力	64.0	62.6	60.8
	読む能力	74.9	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	47.6	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

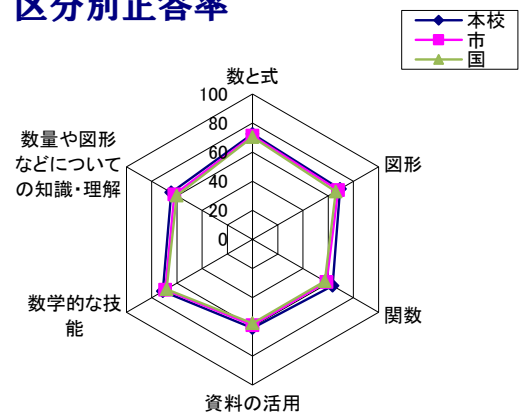
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Bは、国、県、市の平均を上回っている。 ●国語Aは、県、国の平均は上回ったが、市の平均をやや下回っている。「スピーチの構成」を捉える問題で、県、国の平均をやや下回っている。	・今後も事実と考えの関係に注意し、構成を工夫して話したり、聞いたりすることに取り組ませていきたい。
書くこと	○国語A、Bともに、国、県、市の平均を上回っている。国語Aは、正答率が80%を超えており、「目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる」問題では、正答率が95.2%だった。 ●国語Bの「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題の正答率は47.6%で、条件に合わないものが20.7%、無回答率も11%と高かった。	・今後は、文章の内容などを捉えて、まとめるとともに、自分の考えを書く練習に取り組ませていきたい。条件が複数ある場合でも、それに合わせて書く力をつけさせたい。
読むこと	○国語A、Bともに、国、県、市の平均を上回っている。国語Bの「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」問題では、県の平均を3.8%、国の平均を4.9%上回っている。 ●国語Bの「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」問題では、県、国の平均をやや下回っている。	・今後も、場面の展開や描写に注意して読ませ、内容や登場人物の心情を理解できるようにさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語A、Bともに、国、県、市の平均を上回っている。「楷書と行書の違いを理解する」問題と「古文と現代語訳を対応させて内容を理解する」問題では、県、国の平均を大幅に上回っている。 ●漢字の読みの正答率は90%を超えているが、書きの正答率が60%を下回るものもあり、無回答率も10%以上と高い。書きは、県、国の平均を下回っている。	・漢字の学習では、今後も漢字練習・漢字テストを継続していくことで、身につけさせていきたい。感想などを書く場合にも、適切な漢字を使えるようにさせたい。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

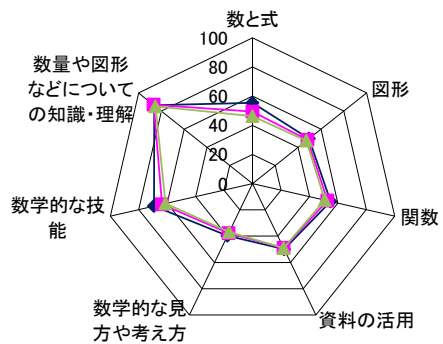
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.6	71.4	70.4
	図形	69.4	67.9	66.0
	関数	63.4	58.6	57.4
	資料の活用	60.9	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	71.2	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	64.5	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	55.4	49.4	46.3
	図形	49.4	48.3	47.1
	関数	54.9	52.7	50.8
	資料の活用	49.9	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	39.7	37.8	36.8
	数学的な技能	69.3	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	86.1	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学A, Bともに全国, 市を上回っている。与えられた式の意味を具体的な事象の中で読み取る問は正答率が80%を超えている。 ●等式の変形について正答率は全国・市を上回っているが無回答の割合は多くなっている。	・計算の反復練習や既習事項の確認を行いながら計算力の確かな定着を図りたい。
図形	○数学A, Bともに全国, 市を上回っている。多角形の内角の和を求める問題では全国正答率を15ポイント上回っている。 ●錯角の意味の理解が不十分の生徒が見受けられる。また、証明された事柄から図形を変形させて新たな性質を見つけることがやや弱い。	・やや発展的な問題を扱い、レポートにまとめさせるなど、既習事項を用いて新たな性質を発見できるような授業の展開を図りたい。
関数	○数学A, Bともに全国, 市を上回っている。グラフや表から比例や1次関数の式を求める問題の正答率が高い。また、無回答率が低い。 ●1次関数の活用で事象を数学的に解釈し、数学的に説明する力がやや弱い。	・具体的な事象について数学的に解釈し、説明できる力を養えるような授業の展開を工夫したい。
資料の活用	○数学A, Bともに全国, 市を上回っている。「同様に確からしい」ことの意味は85%の正答率であった。この領域の理解度は良い水準であると思われる。 ●簡単な場合の確立を求める問いについて類型以外の解答が多い。	・復習や確認を行うことで定着が図れていると思われるので、今後も継続して行っていく。また、誤答を分析し、つまづいている生徒の理解が深まるようにしたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べていますか」については、「あまり食べていない」・「全く食べていない」生徒が6.6%の約15人存在している。全国6.8%や県5.9%とほぼ同じであるが、健全な成長のためにも家庭との連携が必要である。
- 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している生徒は、28.6%である。全国19.9%と県24.6%を上回っている。
- 自分には、よいところがあると思っている生徒は、27.3%である。全国28.2%や県31.8%をやや下回っている。学校生活全般に生徒の活躍の場を確保し、成功体験を積ませたい。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒は、10.1%である。全国17.6%や県17.4%を下回っている。授業だけでなく行事等を通してリーダー等の育成を図りたい。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる生徒は、72.2%である。全国の59.7%や県67.2%を上回っている。
- 友達と話し合うとき、友達のを考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる生徒は、54.6%である。全国43.0%や県49.2%を上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」については、「どちらかといえば持っていない」・「持っていない」生徒が26.9%の約61人存在している。全国29.3%や県24.7%とほぼ同じであるが、進路指導等の更なる充実を目指したい。
- 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている生徒は、36.6%である。全国22.5%や県28.6%を上回っている。
- 普段(月～金)の1日当たりのテレビやビデオ・DVDの時間で、2時間以上の生徒が39.6%の約90人存在している。全国49.1%や県48.4%を大きく下回っているが、時間の使い方等に課題が残る。
- 普段(月～金)の1日当たりのテレビゲーム(コンピュータ・携帯型・携帯電話やスマホを使ったゲームも含む)で、2時間以上の生徒が30.9%で約70人。全国37.6%や県33.7%を下回っているが、生活習慣に課題が残る。1時間以上で見ると56%で、全国59%や県56.7%とほぼ同じである。
- 普段(月～金)の1日当たりの携帯電話やスマホでの通話やメール、インターネットで、2時間以上の生徒が24.7%の約56人。全国32.2%や県25.1%を下回っているが、生活様式に課題が残る。1時間以上で見ると42.3%の約96人。全国50.4%や県42.2%。
- 普段(月～金)の1日当たりの勉強時間(学習塾や家庭教師も含む)は、2時間以上の生徒が40%約91人。全国35.4%や県36.2%を上回っている。30分より少ない生徒が10.1%で約23人。全国13.2%や県10.1%とほぼ同じである。
- 土や日の学校が休みの日の1日当たりの勉強時間(学習塾や家庭教師も含む)は、2時間以上の生徒は54.6%で約124人。全国41.8%や県48.2%を上回っている。1時間より少ない生徒は20.2%約46人。全国30.4%や県22.8%を下回っている。
- ・学習塾(家庭教師含む)に通っていない生徒は、32.2%で約73人。全国38.5%や県41.2%を下回っている。
- 携帯電話やスマホを持っていない生徒は23.8%である。全国が19.9%で県が30.7%であった。
- 家で学校の授業の予習をしている生徒は23.3%で全国11.3%や県11.8%を大きく上回っている。全くしていない生徒は、10.1%で全国31.2%や県26.3%を大きく下回っている。
- 家で学校の授業の復習をしている生徒は、18.5%で全国18.9%や県28.6%を下回った。伸び悩んでいる生徒に復習中心の学習習慣を身につけさせる工夫が必要である。
- 先生はよいところを認めてくれていると思っている生徒は、44.1%であり、全国34.5%や県42.6%を上回った。
- 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある生徒は、35.7%である。全国22.5%や県26.6%を大きく上回っている。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒は、16.7%である。全国9.8%や県12.5%を上回っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒は、78.0%である。全国66.1%や県71.9%を上回っている。

宇都宮市立宮の原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・学習内容が明確で理解し易くなっている。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・落ち着いて学習に取り組んでいる。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・課題等の提出率は向上している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・考察を必要とする問題や、記述式の問題への対応が課題	・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の実践	・生徒の話し合いや内容を説明させる機会を多く設定する。